

文化庁「日本博」企画委員会（第2回）議事要旨

【日 時】

平成31年2月28日（木）14：00～16：00

【場 所】

国立科学博物館 大会議室

【出席委員（敬称略）】

織田紘二委員，河村潤子委員，熊倉功夫委員，河野俊嗣委員（代），コシノジュンコ委員（代），小林達雄委員，小松大秀委員，佐藤雅敏委員，高階秀爾委員，根立研介委員

【文化庁】

宮田長官，中岡次長，村田次長，杉浦審議官，坪田参事官，三輪新文化芸術創造活動推進室長

【議事概要】

（1）事務局から、「日本博」の経緯及び概要の説明。（資料1～3）。

次に，各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

- 事業実施まで時間が迫っている。公募や審査のタイムテーブルはどうなっているか。また，審査機関はどうするのか。
- 現状でも，かなりタイトなスケジュールとなっている。何段階かに分けて募集するなどの工夫が必要ではないか。
- 「プロジェクト内容を実施可能な体制」として，具体的にどのようなレベルを想定しているか。新規参入を考えている団体への配慮も必要ではないか。
- 「地方への誘客に資する」というのは，首都圏のプロジェクトなどでは必ずしも結びつかないものもあり，柔軟な運用が必要ではないか。
- 観光地や自然の風景を目的に，多くの外国人が地方を訪れているので，それらの動きと日本博がコラボレーションできれば良い。事実として外国人が多数来てくれているのに，多言語の解説が十分でないのは問題。文化的・歴史的な背景を含め，きちんと説明するようにしつつ，容易に外国人の方がアクセスできる枠組みを積極的に考えていく必要があるのではないか。
- インバウンド促進に関しては，外国人の方がアクセスできる枠組みを，事務局としても積極的に考える必要があるのではないか。
- 「総合大規模プロジェクト」の具体的なイメージはあるのか。また，公募助成型について，既にある程度進んでいるものに日本博的な要素を追加することは可能か。

- 例えば琉球の組踊は、歌舞劇として誕生したが、「酒」と「食」もセットになっているのがポイントであり、同様に、芸能、日本酒、和食等複数の要素を複合的に考える視点が必要ではないか。
- 日本の美術は生活の中に位置づけてこそ価値があるので、そういった説明も加えて展示をすることも重要ではないか。
- 事業については、どういったPRをしていく予定か。日本博のHPは作るのか。
- できるだけ多くの人に「日本博」に参画してほしいという要請と、他方で、総合テーマなどとの兼ね合いから日本博以外で実施したほうが効果的なものがあると思うので、そういった点も踏まえた観点が必要ではないか。

(事務局)

- 現在、公募助成型のスキーム等について、財政当局と協議中であり、早ければ3月中に募集を開始し、数週間の受付期間を設け、さらに審査に数週間かかる見通し。参画型については、随時認定していきたいと考えている。審査機関については、別途有識者による審査会を設置する予定。
- 「体制」については、現実的にプロジェクトが実施可能かを確認する必要があるものの、新規参入を排除することのないよう、最終的な審査基準などに落とし込む段階では工夫したい。
- 特に2019年度事業については、既に企画されているものを進化させて「日本博ナイズ」することは考えられる。「総合大規模プロジェクト」の具体的内容は検討中であるが、現時点では、2020年3月開催予定のオープニングセレモニーと連動させたプロジェクトなどを想定している。
- 広報・周知については、今後、随時説明の機会を設ける予定であり、新聞各社にもご協力いただいてPRを推進したい。日本博HPについては現在準備中であり、2月中に暫定版をオープン予定。あわせて海外向けのプロモーション展開も予定している。

(2)事務局より、日本博の主なプログラムの検討状況について説明があった。次に、各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

- 例えば、パリのルールでも展示された百済観音は、日本の“木”を用いる習慣と関連付けて説明することで、「日本人と自然」という日本博テーマにふさわしい展示となりうるのではないか。
- プロジェクトの背景等を詳しく理解できれば、「日本博」にふさわしいものであると分かる。多くの方の理解を深めるためにも、企画委員も協力してメッセージを発信していくことが必要ではないか。

- 全体的な印象として、グラフィックやファッション系のものが少ない気がするので、是非検討していただきたい。
- 生活文化としての茶道や華道などの伝統的なものや、現代アートなど「尖った」ものを入れるべきではないか。
- 障害や共生等も重要な視点であり、日本文化がマイノリティを含んだものであることをアピールすることも重要ではないか。
- 日本の特徴として、アニミズムからの流れがあったり、日本特有の「壊す」文化もある。こういったテーマにも注目しながら発信していくことも必要ではないか。
- 短歌や俳句も、若者に人気のコンテンツなので、若年層を取り込むという意味でも、もっとアピールすべきではないか。
- 日本の「景観」も一つの重要な文化なので、うまくアピールすべきではないか。
- イベントを「点」で終わらせずに、繋いで見せていくことが重要ではないか。
- 「日本博」に連動して人も動いていくことが重要であるが、特に地方誘客は、テーマ性が繋がっていないと難しい。そのため、行きたくなるような仕掛けや、敢えて行かざるをえないような仕組みも必要ではないか。
- 例えば、シンボリックな拠点を設け、日本博に関する全ての情報が集約させた上で、そこから全国へ展開する仕掛けも検討したらどうか。

(3) 事務局から、3月3日の「日本博旗揚げ式」について説明があった。

(以上)